

景觀資源圖

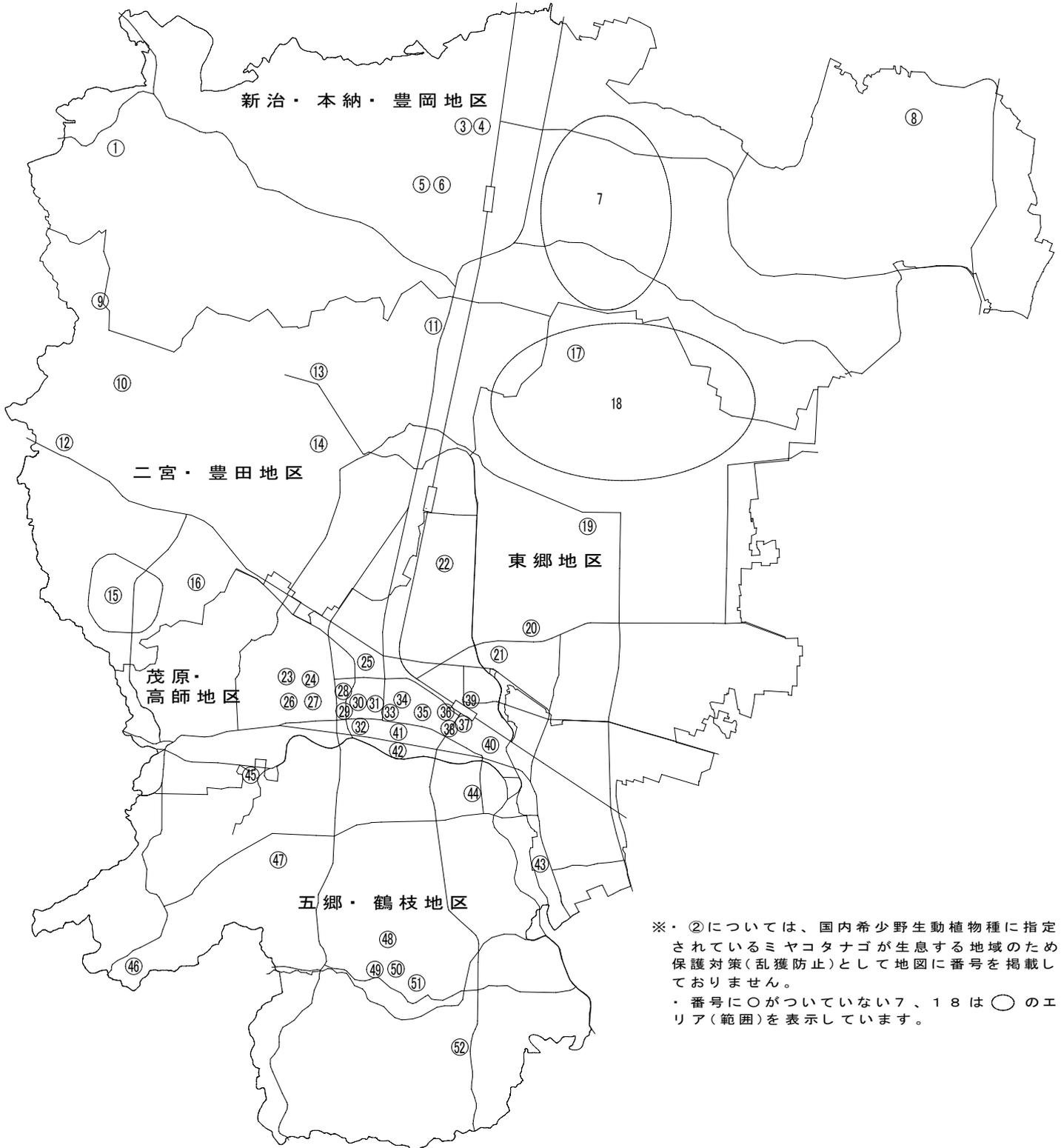


茂原市

景観資源図 掲載一覧表

番号	名称	区別	地区
①	自然林の中にある古木	自然	新治・本納・豊岡地区
②	山間部の清流	自然	
③	本納橋樹神社	歴史・文化	
④	本納橋樹神社社叢	自然、歴史・文化	
⑤	本納城跡	自然、歴史・文化	
⑥	蓮福寺の大公孫樹	自然、歴史・文化	
7	広大な耕地に広がるネギ畑	生活	
⑧	円立寺の菩提樹	自然、歴史・文化	
⑨	真名地区の高台からの眺望	自然	
⑩	真名天照大神社社叢	自然、歴史・文化	
⑪	渋谷の大モミジ	自然	
⑫	圏央道 真名の橋	生活	
⑬	長尾橋神社	歴史・文化	
⑭	八田堰	自然	
⑮	緑ヶ丘地区	生活	
⑯	茂原牡丹園(加藤家住宅 主屋)	生活	
	茂原牡丹園(加藤家住宅 長屋門)	生活	
⑰	龍鑑寺	歴史・文化	東郷地区
18	田園風景	自然、生活	
⑱	掩体壕群	歴史・文化	
⑳	富士見緑道	まちなか	
㉑	富士見公園脇の並木道	まちなか	
㉒	遊歩道と萩原交通公園	生活	茂原・高師地区
㉓	美術館・郷土資料館	歴史・文化	
㉔	茂原公園(春夏秋冬)	自然	
㉕	桜並木(豊田川河川敷)	自然	
㉖	鷲山寺	歴史・文化	
㉗	藻原寺	歴史・文化	
㉘	ランドマークになっている市庁舎	まちなか	
㉙	市庁舎脇の豊田川(愛称:天の川)	まちなか	
	七夕物語にちなんだ天の川の壁画	まちなか	
㉚	門前町のまちなみ(昌平町)	まちなか、歴史・文化	
㉛	六斎市(昌平町)	まちなか	
㉜	門前町のまちなみ(本町)	まちなか、歴史・文化	
㉝	そびえ立つ鉄塔(愛称:もしもしタワー)	まちなか	
㉞	フラワーラック	まちなか、生活	
㉟	茂原七夕まつり	生活	
㊱	茂原秋まつり合同渡御	まちなか	
㊲	電柱のないまちなみ	まちなか	
㊳	茂原駅前のモニュメント	まちなか	
㊴	ガス燈	まちなか	
㊵	天然ガスのまち「もばら」を感じる風景	まちなか	
㊶	茂原昇天教会	歴史・文化	
㊷	サイクリングロード(散歩道)	生活	
㊸	茂原市の花「コスモス」が咲き誇る風景	自然、生活	
㊹	工場脇の並木道	まちなか	五郷・鶴枝地区
㊺	新八幡原川沿い花畑	生活	
㊻	行徳寺	歴史・文化	
㊼	つつじ園	自然	
㊽	緑豊かな自然に囲まれた レイクウッズガーデンーひめはるの里	自然	
㊾	千葉眼科記念館	生活	
㊿	八幡湖	自然	
㊿	大自然に囲まれた山間	自然	
㊿	山一帯が「あじさい」に染まる風景 服部農園 あじさい屋敷	自然	

茂原市 景観資源図



※・②については、国内希少野生動植物種に指定されているミヤコタナゴが生息する地域のため保護対策(乱獲防止)として地図に番号を掲載しておりません。
 ・番号に〇がついていない7、18は○のエリア(範囲)を表示しています。

<新治・本納・豊岡地区>

① 自然林の中にある古木:(大沢)



自然林に囲まれた中で樹齢約500年と推定されるスダジイが凜として立っている。

② 山間部の清流



山間部の清流や水田脇の小川からはせせらぎが感じられ、ミヤコタナゴが生息し、潤いがある。

③ 本納^{たちばな}橋樹神社:(本納)



1000年以上続く古社で神域の保全がされており、荘厳な雰囲気を感じ出している。

④ 本納^{たちばな}橋樹神社社叢:(本納)



森林が最後に到達する安定した姿である極盛相(きょくせいそう)状態であり、緑豊かな自然が感じられる景色である。

⑤ 本納城跡:(本納)



本納の街が一望できる素晴らしい眺望とともに周囲が自然に囲まれ、歴史、文化が感じられる場所である。

⑥ 蓮福寺^{れんぶくじ}の大公孫樹^{おおいちょう}:(本納)



樹齢約400年の古木で、夏にはこまやかな緑陰が地域住民の憩いの場になっている。

7 広大な耕地に広がるネギ畑:(法目)



市街地外縁部に一面ネギ畑が広がる景色は壮大である。

<二宮・豊田地区>

⑨ 真名地区の高台からの眺望:(真名)



高台からは市内が眺望でき、晴れた日は彼方に九十九里浜を望み、夜は市街地の夜景を楽しむこともできる。

⑪ 渋谷の大モミジ:(渋谷)



通常のもみじと違い真直ぐに天空に伸びた珍しい光景であり、紅葉が絶景である。

⑧ えんりゅうじ ほだいじゆ 円立寺の菩提樹:(栗生野)



シナノキ科に属し球形の実を結ぶ変わった習性で、県下でも珍しい樹種であり地域に和みを与えている。

⑩ まんなてんしょうたいじんじゃしゃそう 真名天照大神社社叢:(真名)



西部丘陵地帯に位置し、スダジイを中心とした森林であるとともにコクランが群生するなど貴重な自然林となっている。

⑫ 圏央道 真名の橋:(真名)



真名地区に建設された首都圏中央連絡自動車道(通称:圏央道)の3の橋は、雄大さを兼ね備えているとともに、自然豊かな地域の景観と調和している。

⑬ 長尾^{たちばな}橋神社:(長尾)



村社として古くから地元の神様を祭っており、風格のある神社である。

⑭ 八田^{はった せき}堰:(長尾・小林)



地域住民の憩いの場となっている水辺景観である。

⑮ 緑ヶ丘地区:(緑ヶ丘)



地区のルールにより美しい街並みが形成され統一された住宅地である。

⑯ 茂原牡丹園 加藤家住宅^{しゅおく} 主屋:(山崎)



国の登録有形文化財に指定されており、県内でも数少ない民家の一つである。
春には、茅葺き家の前に牡丹の庭園が広がり、多くの来園者が訪れる。

⑯ 茂原牡丹園 加藤家住宅 長屋門:(山崎)



伝統的な農家建築の長屋門は、里山景観のアクセントとなっている。

⑯ 茂原牡丹園 :(山崎)



裏山から聴こえる、うぐいすの音色は、牡丹の花とともに良く合い、里山を散策する人々に癒しを与えている。

<東郷地区>

⑰ りゅうがんじ 龍鑑寺: (七渡)



歴史的にも重要な寺院であり、田園地帯の中に静かなたたずまいを見せている。

18 田園風景: (東郷地区)



青々とした苗、黄金色に実った稲穂など、田舎の原風景げんふうけいを感じることができる。

⑱ えんたいごうぐん 掩体壕群: (本小轡)



戦時中の茂原海軍航空基地を語る数少ない遺跡である。

⑳ 富士見緑道: (東郷)



市内唯一の緑道として、地域住民に憩いを与えている。

㉑ 富士見公園脇の並木道: (東郷)



道の両側に公孫樹が並び、秋には鮮やかな黄葉のトンネルを創り出している。

< 茂原・高師地区 >

②② 遊歩道と萩原交通公園：(小林飛地)



市民の憩いの場であり、緑と水の潤いを感じられる空間である。

②③ 美術館・郷土資料館：(高師)



茂原公園内に建つアートな建物で、芸術文化・郷土資料と触れ合うなど、公園内の自然と茂原市の文化が結びつく場所である。

②④ 茂原公園(春)：(茂原・高師)



四季折々の顔を持ち、日本の「さくら名所100選」に選ばれた、市を象徴する景色であり、桜の開花時には多くの人が訪れにぎわいを見せている。

②④ 茂原公園(夏)：(茂原・高師)



初夏には、新緑に覆われた木々とともに、湖面には大賀ハスの葉が浮かぶ。

②④ 茂原公園(秋)：(茂原・高師)



秋には紅葉が見られ、趣きを感じさせる。

②④ 茂原公園(冬)：(茂原・高師)



雪化粧をまとった公園の木々は、満開の桜を思わせる。

②⑤ 桜並木(豊田川河川敷):(茂原)



河川にそって桜が植えられ、満開の時期には菜の花の黄色や雪柳の白とも調和してとても美しい風景である。

②⑥ ^{じゅせんじ}鷲山寺:(鷲巣)



歴史的なたたずまいのある寺院であり、夏には、開山忌まつりが催され、多くの人が訪れる。

②⑦ ^{そうげんじ}藻原寺:(茂原)



由緒ある歴史的な寺院であり、節分の豆まきには、多くの人が集まり、にぎわいを見せている。

②⑦ ^{そうげんじ}藻原寺:(茂原)



龍宮城を思わせる多宝形式で茂原市内のシンボリックな建物である。

②⑧ ランドマークになっている市庁舎:(道表)



市内有数の高層建築物で、地域の目印として、ランドマークの役割を果たしている。

②⑨ 市庁舎脇の豊田川(愛称:天の川):(茂原)



七夕まつり開催時には、両岸に吹き流しが飾られ人々の目を楽しませる。

- ②⑨ 市庁舎脇の豊田川(愛称:天の川)
:(茂原)



七夕まつり開催時には、暖かみのある光を放つ無数のキャンドルが置かれ、幻想的な風景を創り出している。

- ②⑨ 七夕物語にちなんだ天の川の壁画
:(茂原)



天の川の壁画は、茂原七夕まつりのキャラクター「モバリん」とともに、訪れる人々に七夕のまち「もぼら」をイメージさせる風景である。

- ③⑩ 門前町のまちなみ(昌平町):(茂原)



昔ながらの商店が門前町のまちなみを形成している。

- ③⑪ ^{ろくさいいち}六斎市(昌平町):(茂原)



毎月4と9の付く日に開催され、季節の植木、野菜、果物、干物が売られ、昔から続く伝統ある風景である。

- ③⑫ 門前町のまちなみ(本町):(茂原)



代々続く店構えのある商店会は伝統的な風情を感じさせる。

- ③⑬ そびえ立つ鉄塔(愛称:もしもしタワー)
:(茂原)



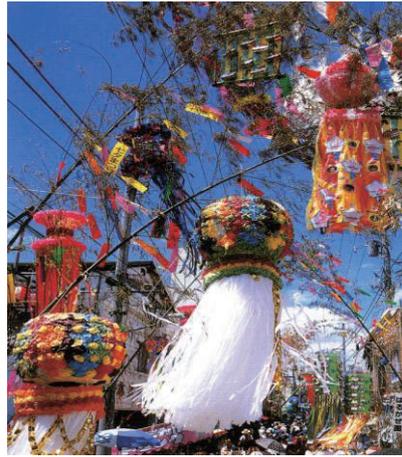
市内各所から望むことができるタワーで赤と白のコントラストがとても魅力的である。

③④ フラワーラック:(茂原・高師)



季節に合わせて色とりどりの草花が飾られ、周囲を和ませている。

③⑤ 茂原七夕まつり:(茂原・高師)



七夕の竹飾りや吹流しで施された飾りは優雅で繊細であり、美しさを兼ね備えた夏の良き風情が感じられる。

③⑥ 茂原秋まつり合同渡御:(茂原・高師)



3基の神輿が織りなす威勢の良さは、活気に満ち溢れる風景を創り出している。

③⑦ 電柱のないまちなみ:(千代田町)



電線が地中化されていることにより、視界を遮るものが無く良い景観になっている。

③⑧ 茂原駅前のモニュメント:(千代田町)



茂原駅南口にある独創的なモニュメントで、人々を出迎え、和みを与えている。

③⑨ ガス燈:(町保)



地場産業の天然ガスを利用したガス燈は、駅前や市庁舎前に設置されている。暖かみのある光は、昭和のレトロ感があり、訪れる人々に和みを与えている。

- ④⑩ 天然ガスのまち「もばら」を感じる風景
:(高師)



地場産業の象徴として、地域にとけこみ市民の目を楽しませている。

- ④⑪ もばら しょうてんきょうかい
茂原昇天教会:(茂原)



昭和初期の端正な教会建築で、当初の姿をそのまま伝えている、趣きのある建築物である。

- ④⑫ サイクリングロード(散歩道):(茂原)



河川沿いにある自転車・歩行者専用道路で、桜やつつじの花々など、季節ごとの景色が感じられ、水と緑のネットワークを形成している。

- ④⑬ 茂原市の花「コスモス」が咲き誇る風景
:(大芝)



市の花「コスモス」が秋の澄みきった青空に咲き誇る姿は、優美で清潔感がある。

<五郷・鶴枝地区>

- ④⑭ 工場脇の並木道:(早野)



工場が立ち並ぶ中の並木道は、通る人を和ませ、心休まる空間を醸し出している。

- ④⑮ 新八幡原川沿い花畑:(八幡原)



一宮川沿いに咲く、色とりどりの花々は、水と緑のネットワークを形成し、地域に潤いを与えている。

④⑥ ぎょうとくじ
行徳寺:(中善寺)



田園風景の中に朱塗りの門構えがひとときわきわ立ち、美しい景観である。

④⑦ つつじ園:(綱島)



約2000株のつつじが山一面に咲き揃う景色は壮大である。

④⑧ 緑豊かな自然に囲まれた
レイクウッズガーデンーひめはるの里
:(上永吉)



平成23年4月にリニューアルオープンした「感動」と「癒し」のテーマパーク。人と自然との調和の中で、多くの人に感動と癒しを提供している。

④⑨ 千葉眼科記念館:(上永吉)



茂原市に現存する数少ない明治中期のモダンな建物で、和風のデザインもされた貴重な西洋建築物である。

④⑩ 八幡湖:(上永吉)



湖周辺は、緑豊かな自然と調和した市民憩いの場である。

④⑪ 大自然に囲まれた山間:(上永吉)



八幡湖に面する八幡神社周辺の森は、ヒメハルゼミ発生地として、国の天然記念物となっており、希少な環境が残されている。

- ⑤2 山一帯が「あじさい」に染まる風景
服部農園 あじさい屋敷:(三ヶ谷)



あじさいの花が山の斜面に咲き競い、色彩豊かな光景が広がる。

景観資源図の個別解説

【参考資料】

番号	名称	説明	区別	地区
①	自然林の中にある古木大椎(おおじい)	樹齢約500年と推定されるスダジイ(ブナ科シイ属)の古木で、根回り12m、大人5~6人が入れるうろがある。みみずくがここを棲みかとしていたほほえましい光景もみられ、趣きを感じさせる。	自然	新治・本納・豊岡地区
②	山間部の清流 ミヤコタナゴ	山間部の清流には国の天然記念物となっているミヤコタナゴが生息している。このミヤコタナゴはコイ目コイ科タナゴ亜種に属する小型の淡水魚で4~7月に二枚貝のマツカサガイやイシ貝などに産卵する。環境の大きな変化に伴い、その数も減少の一途をたどり「国内希少野生動物種」として指定されている。ミヤコタナゴが生息する清流として、貴重である。	自然	新治・本納・豊岡地区
③	(ほんのうたちばなじんじゃ) 本納橘樹神社	橘樹神社は、弟橘媛の伝説でも知られ、延長5年(927)に編纂された延喜式(注1)の神名帳に記載されている由緒ある神社である。平安時代中期には、同社の社領を中心に橘木荘と呼ばれる荘園が形成されている。本殿の後方には弟橘媛を祀る陵墓の墳丘があり、境内には、古木老樹が生い茂る中「節櫛の井戸」「吾妻の池」があり、まさに神社としての荘厳な雰囲気醸し出している。 (注1)養老律令に対する施行規則を集大成した古代法典	歴史・文化	新治・本納・豊岡地区
④	(ほんのうたちばなじんじゃ しゃそう) 本納橘樹神社社叢	神社裏の森林は、高木・亜高木・低木から、その根元に繁茂する下草までそろっていて、形成された森林が最後に到達する安定した姿である極盛相の状態であり、自然豊かな景色である。	自然、歴史・文化	新治・本納・豊岡地区
⑤	本納城跡	本納城は、黒熊氏の居城として伝えられ、永禄12年(1569)に土気城主酒井胤治に攻め滅ぼされたとされる。現在も削壁、抜穴、狼火台址等の遺構が残されており、大変貴重な城跡である。自然、歴史、文化に触れることができる。	自然、歴史・文化	新治・本納・豊岡地区
⑥	(れんぷくじのおおいちょう) 蓮福寺の大公孫樹	樹齢約400年、樹高17.5m、根回り5.6m、目通幹周3.8m、枝間18mの古木で、枝葉が四方に繁茂している。夏はこまやかな緑陰が地元住民の憩いの場になっている。	自然、歴史・文化	新治・本納・豊岡地区
7	広大な耕地に 広がるネギ畑	本納ネギは温暖な気候と粘質な土壌が合っていたことから、大正14年に栽培が行われた。現在は、ネギの生産額全国1位の千葉県の中で重要な位置にある。大通りからはずれるとあたり一面にネギ畑が広がる景色は、壮大である。	生活	新治・本納・豊岡地区
⑧	(えんりゅうじのぼだいじゆ) 円立寺の菩提樹	シナノキ科に属する落葉高木で、枝分かれしてよく茂り、葉の先端裏側に灰かっ色の毛が密生し、球形の実を結ぶ樹種である。	自然、歴史・文化	新治・本納・豊岡地区

番号	名称	説明	区別	地区
⑨	真名地区の高台からの眺望 (真名カントリークラブ)	真名の高台から茂原市内が眺望でき、晴れた日は彼方に九十九里浜を見ることもできる。夜は茂原市街地の夜景を楽しむこともできる。	自然	二宮・豊田地区
⑩	(まんなてんしょう だいじんじゃしゃそう) 真名天照大神社社叢	茂原市西部丘陵地帯に位置し、常緑樹のスタジイ(ブナ科)がうっそうと茂り、コ克蘭(ラン科)が群生していて貴重な自然林である。	自然、歴史・文化	二宮・豊田地区
⑪	渋谷の大モミジ	伊奘子神社境内には、茂原市の大モミジがある。このモミジは、イロハモミジ(別称 タカオモミジ)で東北地方以西の山地に分布する。通常のもみじは、幹が数多く分岐して傘のように枝を広げることが多いが、この幹は分岐が少なく真直ぐに天空に伸びており、大変珍しい。	自然	二宮・豊田地区
⑫	圏央道 真名の橋	首都圏中央連絡自動車道は、都心から半径約40～60kmの位置に計画されており、延長約300kmで環状に連絡する自動車専用道路である。(仮称)茂原北IC～(仮称)茂原長南ICの間にある(仮称)真名第一橋、(仮称)真名第二橋、(仮称)真名第三橋は、地域の景観(丘陵、田園地域)に調和した設計となっており、自然環境に融和している。	生活	二宮・豊田地区
⑬	(ながおたちばなじんじゃ) 長尾橋神社	橋神社は、村社として長い間地元の神様として祭られ、風格のある神社である。地域住民一体となり趣きがある風景を維持している。	歴史・文化	二宮・豊田地区
⑭	(はったせき) 八田堰	住民の憩いの場として、散歩コースにもなっている。地域が一体となった故郷づくりをしようとコスモスも植えている。また、かわせみも姿を見せ、住民を和ませている。	自然	二宮・豊田地区
⑮	緑ヶ丘地区 (地区計画)	緑豊かな丘陵地帯の住宅地。地区のルールにより壁面後退や色・建築物の用途が統一されているため、美しい街並みが形成されている。また、茂原市の市木である「つつじ」が道路脇に咲く場所もあり、住民を和ませている。	生活	二宮・豊田地区
⑯	(もばらぼたんえん) 茂原牡丹園 (かとうけじゅうたくしゅおく) 加藤家住宅主屋	加藤家住宅は、山崎の集落の中にあつて、享保年間(1716～1735)に建てられたものと伝えられている。寄棟造、茅葺屋根の農家建築で長屋門と同じく上総地方の伝統的な間取りの特徴を端的に示している。主屋の裏山ではうぐいすの鳴き声や笛、春の山野草も楽しめる。	生活	二宮・豊田地区
	茂原牡丹園 加藤家住宅長屋門	もともと長屋門は、江戸時代に武家屋敷門として発生した形式であり、後に苗字帯刀を許された名主、庄屋等の富農層にまで広がり、全国的に広がった。加藤家の長屋門は、主屋と同じく寄棟造、茅葺屋根をもった門であり、天保8年(1837)に建てられたことが、屋根裏から発見された棟札から確認できる。	生活	二宮・豊田地区
	茂原牡丹園	茂原牡丹園は上総の民家と里山を背景に牡丹をあしらった素朴で自然な庭園を演出している。牡丹の蒐集と栽培は、昭和54年から始まり、現在では5000㎡に250種(約2500株)を養成している。芍薬や西洋シャクナゲ、つつじ等、春の花を集めて植栽しており、4月末からは珍しいハンカチの木も開花する。	生活	二宮・豊田地区

番号	名称	説明	区別	地区
⑰	(りゅうがんじ) 龍鑑寺	上総七里法華に関連する寺である。上総七里法華とは、戦国時代初期の上総国土気城主、酒井定隆が行ったとされる宗教施策である。定隆は、土気城主となるにおよび、領内に法華宗への改宗令を出したと伝えられる。真言宗の古刹であり改宗の重点として上げられる。	歴史・文化	東郷地区
18	田園風景	先人達が長い年月をかけてつくりあげた田園、そこでは季節毎に整然と碁盤目に並んだ幼苗、風にそよぐ青々と成長した緑のじゅうたんが広がる。辺り一面に黄金色に育った稲穂などが目の前に広がり、田舎の原風景に心が和む良い景観が各所で見られる。	自然、生活	東郷地区
⑱	(えんたいごうぐん) 掩体壕群	掩体壕は、正式には「飛行用掩体」と呼ぶ。太平洋戦争末期、アメリカ軍による茂原海軍航空基地への攻撃が激しくなっていく中で、基地の北側に、戦闘機を保護し耐弾性に優れた格納施設がつけられた。戦時中につくられたものは20数基を数えるが、現存するものはそのうち11基である。現在茂原市は、掩体壕が全国的に一番多く残されている地域として注目されている。	歴史・文化	東郷地区
⑳	富士見緑道	市内東郷地区のほぼ中央を南北にわたって縦断する両総用水路に沿って続く「富士見緑道」は、大通りの喧騒を忘れさせてくれる閑静な散歩道である。毎年秋になると地元ボランティア団体「富士見緑道保全会」が、約1km続くこの緑道に葉ボタンを植栽している。初冬を迎える頃から1月にかけて、葉ボタンは見頃を迎え、その道を通る人たちの心を和ませている。	まちなか	東郷地区
㉑	富士見公園脇の並木道	公孫樹の木が夏は緑の葉を茂らせ、秋には美しい紅葉が見られ、鮮やかなトンネルを創り出している。	まちなか	東郷地区

番号	名称	説明	区別	地区
②②	遊歩道と萩原交通公園	散歩、ジョギングをする市民が多く見られる。学校への安全な通学路として利用されている。また、交通公園は緑豊かで住民の憩いの場として親しまれている。	生活	茂原・高師地区
②③	美術館・郷土資料館	茂原公園内に建つアートな建物。芸術文化・郷土資料と触れ合うことができ、公園内の自然と茂原市の文化が結びつく場所である。	歴史・文化	茂原・高師地区
②④	茂原公園 (春夏秋冬)	日本の「さくら名所100選」に選ばれたサクラの名所であり、開花時には多くの見物人が集まる。弁天湖の中央には茂原弁財天のある島があり、赤いアーチ橋が架かっている。木漏れ日のもと散歩を楽しむことができる。	自然	茂原・高師地区
②⑤	桜並木(豊田川河川敷)	河川にそって桜が植えられ、満開の時期には菜の花の黄色や雪柳の白とも調和してとても美しく、サイクリングや散歩も楽しめる。	自然	茂原・高師地区
②⑥	(じゅせんじ) 鷲山寺	長國山鷲山寺は、法華宗(本門流)の大本山の一つである。鷲山寺の古記録『青表紙』によると日蓮聖人は文永元年(1264)鷲巢の大檀那、小早川内記と師檀の盟約を結び、後の中老僧日弁大正師によって建治3年(1277)に創立されたと伝えられている。鷲山寺は、関東法華の棟梁と言われ、慶安2年(1649)江戸幕府三代将軍徳川家光より朱印状を交付され、十万石大名の待遇を受けた。正徳3年(1713)当山第27世日誠上人が正親町(おおぎまち)三条大納言公統卿の猶子(ゆうし)となり菊御紋緋紋白の袈裟を下賜された。慶応4年(1868)には有栖川宮家の祈願所となった。七堂伽藍備えていた鷲山寺は四度の火災に遭い諸堂を焼失したが、日蓮聖人の御尊像は建立以来の姿で「鷲巢のお祖師様」と呼ばれ今も篤い信仰を集めている。	歴史・文化	茂原・高師地区
②⑦	(そうげんじ) 藻原寺	藻原寺は、日蓮聖人が建長5年(1253)に清澄山で立教開宗を宣言した後、茂原の豪族斉藤兼綱の屋敷に招かれて、屋敷内に法華堂を建立したことから始まったと伝えられている。弘安5年(1282)日蓮聖人の入滅後、その跡を継承した六老僧の一人日向聖人は、身延山、藻原寺(当時は妙光寺)を兼務したところから、西の身延山に対して東の身延山と称し、今日まで語り継がれている。	歴史・文化	茂原・高師地区
②⑧	ランドマークになっている市庁舎	市庁舎は市内有数の高層建築物で、地域の目印となるランドマークとして存在している。庁舎周辺には、緑地を設け周辺住宅との調和を図っている。また東側は河川に面しており、潤いのある空間となっている。	まちなか	茂原・高師地区
②⑨	市庁舎脇の豊田川 (愛称:天の川)	豊田川の茂原橋から酒盛橋間約1.3kmをロマンティックな川の愛称として「天の川」と命名。平成23年7月20日に命名式が挙行された。	まちなか	茂原・高師地区
	七夕物語にちなんだ 天の川の壁画	平成23年7月に千葉県立長生高等学校美術部と市内業者(サトペン)との共同作業により製作された。七夕のまち「もばら」をイメージさせる壁画である。	まちなか	茂原・高師地区
③⑩	門前町のまちなみ (昌平町)	昔ながらの商店が主の商店会があり、門前町のまちなみを形成しており、伝統ある六斎市が見られる。また、茂原七夕まつりの時期には色々な飾りが夜空を彩る風景が見られる。	まちなか 歴史・文化	茂原・高師地区
③⑪	(ろくさいいち) 六斎市(昌平町)	近世初頭、徳川家康の重臣大久保忠佐が開いたと伝えられ、約400年の歴史をもつ伝統的な市である。昌平町通りで4と9のつく日に開催されている。	まちなか	茂原・高師地区
③⑫	門前町のまちなみ (本町)	昔ながらの伝統的な商店がある商店会であり、門前町のまちなみを形成している。代々続く店構えのある商店会は昔ながらの風情を感じさせる。	まちなか 歴史・文化	茂原・高師地区

番号	名称	説明	区別	地区
③③	そびえ立つ鉄塔 (愛称:もしもしタワー)	茂原榎町商店街に隣接するNTT東日本・茂原ビル別館の上にそびえ立つ鉄塔で、平成24年3月に「もしもしタワー」と命名された。 市内の各地域から望むことができ、赤と白のコントラストが魅力的な景観として、人々に親しまれている。	まちなか	茂原・高師地区
③④	フラワーラック	花と緑に包まれた商店街作りを通じ、商店街のイメージアップを図ることを目的に各商店にフラワーラックが設置されている。ラックには季節に合わせて色とりどりの草花が飾られ、道行く人を楽しませている。	まちなか、生活	茂原・高師地区
③⑤	茂原七夕まつり	昭和29年榎町商店街の主催で開催されたのが始まり。以来その伝統を今に伝えている。神奈川県平塚市とともに「関東三大七夕祭り」と呼ばれ、竹飾りや吹流しなど各地域で創意工夫をこらした飾りが各商店街に施され80万人を超える人出で賑わう県下でも有数の祭り。茂原市の名物にもなっており、市民からも親しまれ、夏の良き風情が感じられる。	生活	茂原・高師地区
③⑥	(ごうどうとぎよ) 茂原秋まつり合同渡御	高師八幡神社の神輿2基と茂原八幡神社の大神輿が、市街地を練り歩き、JR茂原駅前ロータリーに集結する。大勢の市民が見守る中で、3基の神輿は、担い手の「ソリヤ、ソリヤ」の掛け声などにより威勢の良さがあり、にぎわいの景観が感じられる。	まちなか	茂原・高師地区
③⑦	電柱のないまちなみ	電線が地中化されていることにより、視界を遮るものが無く良い景観になっている。	まちなか	茂原・高師地区
③⑧	茂原駅前のモニュメント	タイトルの「SPRING IS SPRUNG」は春をフツと感じた時の快い驚きの感情を表現している。鮮やかで活発な黄色は「SUN(太陽)」を、風に踊るような伸びやかで優しいフォルムは「FLOWER(花)」を、緑の中のダイナミックな構成は「GREEN(緑=自然)」を象徴し、植物が空に向かってぐんぐん伸びてゆく様を全体で表現している。	まちなか	茂原・高師地区
③⑨	ガス燈	茂原駅東口に3基5灯、南口に2基8灯、市庁舎前に3基9灯設置されている。駅前では、夜になると暖色の明かりが灯され、人々に和みを与えている。	まちなか	茂原・高師地区
④⑩	天然ガスのまち 「もばら」を感じる風景 (ガスホルダー)	地域の景観とも調和しており、天然ガスのまち「もばら」のシンボルとして訪れる人たちの心を癒している。正式名は、ガスホルダーといい、直径約30mで貯蔵能力は約10万m ³ である。千葉県で産出される天然ガスは、埋蔵量が約800年分と豊富であり、都市ガスとして県内約55万世帯で利用され、「千産千消エネルギー」を実現している。	まちなか	茂原・高師地区
④⑪	(もばらしょうてんきょうかい) 茂原昇天教会	明治30年(1897)に伝道が始められ、大正14年(1925)に現在地に仮聖堂及び牧師館が建設された。そして昭和8年(1933)、新聖堂が落成、昇天教会と改正、その後昭和16年(1941)に茂原昇天教会となる。手入れが行き届いており、当初の姿をそのまま伝えている。	歴史・文化	茂原・高師地区
④⑫	サイクリングロード (散歩道)	河川に沿い、茂原市・長生村・睦沢町を通り一宮海岸まで連なる自転車・歩行者専用道路がある。河川敷には、桜やつつじの花々、緑の木陰などがあり、季節ごとの景色を感じることができる。	生活	茂原・高師地区
④⑬	茂原市の花 「コスモス」が咲き誇る風景	市制施行45周年記念事業の一環として指定(平成9年10月20日)された茂原市の花「コスモス」が、秋の澄みきった青空のもと、ゆらゆらとそよ風に揺れる風景は、優美で清潔感にあふれている。	自然、生活	茂原・高師地区

番号	名称	説明	区別	地区
④④	工場脇の並木道	工場が立ち並ぶ場所の並木道は、通る人を和ませ、心休まる空間を醸し出している。	まちなか	五郷・鶴枝地区
④⑤	新八幡原川沿い花畑	花と緑にあふれ、潤いのあるまちづくりをめざして行っている花の審査会(花いっぱいコンクール)において、入賞している花畑で、地域のボランティア団体が手入れを行い、美しい花畑となっており、地域に憩いを与えている。	生活	五郷・鶴枝地区
④⑥	(ぎょうとくじ) 行徳寺	田園風景の中に朱塗りの門構えがひとときわきわ立ち、美しい景観である。	歴史・文化	五郷・鶴枝地区
④⑦	つつじ園 (山一面に咲きそろう 「つつじ」)	約2,000株のつつじが山一面に咲き誇る景色は壮大である。また、頂上からは、茂原市内の景色も望むことができる。	自然	五郷・鶴枝地区
④⑧	緑豊かな自然に囲まれた レイクウッズガーデン ーひめはるの里	古代種から現代種まで、約400種のバラ文化を体験できるガーデンの他、四季の移ろいを鮮やかな色と香りで楽しめる美しい花々をゆっくりと観賞できる。また、希少犬種「オーストラリアン・ラブラドゥードル」とのふれあいができるサービスも実施している。	自然	五郷・鶴枝地区
④⑨	千葉眼科記念館	千葉眼科記念館は、明治25年に5代目千葉天夢が開業した近代的な病院施設で、2階屋・平屋を合わせ持った和洋折衷様式の建造物である。洋風の部分は寄棟屋根瓦葺で、和風の部分では入母屋屋根をのせた玄関がたいへんモダンである。昭和59年まで、ここで診察が行われた。	生活	五郷・鶴枝地区
⑤⑩	(はちまんこ) 八幡湖	守護神の八幡神社が鎮座し、天然記念物ヒメハルゼミの鳴く八幡山の麓に約7万㎡の湖、八幡湖がある。その水は流域30万㎡余の水田を潤し、ひめはるの里とも調和して市民憩いの場となっている。	自然	五郷・鶴枝地区
⑤⑪	大自然に囲まれた山間 (ヒメハルゼミ生息地)	ヒメハルゼミは、八幡湖に面する八幡神社の森で発見され、昭和16年に生息の北限として国の天然記念物に指定された。希少な生物が生息する森として保護活動も行われている。	自然	五郷・鶴枝地区
⑤⑫	山一帯が「あじさい」 に染まる風景 服部農園 あじさい屋敷	6月から7月上旬にかけて、10,000株以上のあじさいの花が、山の斜面に色彩豊かに咲き競う。色とりどりのあじさいが繰り広げるパノラマにより美しい景色を見ることができる。	自然	五郷・鶴枝地区

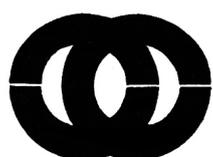
表紙：第2次茂原市都市計画マスタープラン推進市民会議の中村妃佐子委員が描いたものです。

毎年7月に開催している「茂原七夕まつり」をモチーフにした風景画です。

裏表紙には、茂原市マスコットキャラクターである「モバリん」を掲載しています。



茂原市マスコットキャラクター:「モバいん」



茂原市

問い合わせ先

茂原市都市建設部都市計画課

Tel 0475-20-1546

Fax 0475-20-1606

E-mail keikaku@city.mobara.chiba.jp

ホームページ <http://www.city.mobara.chiba.jp/keikaku/>